

会議概要（要点記録）

1	会議名	南あわじ市子ども・子育て会議（第16回）
2	開催日時	平成30年11月26日（水）午後1時30分～午後16時40分
3	開催場所	南あわじ市役所第2別館 第5会議室
4	出席者	<委員> 南あわじ市子ども・子育て会議 委員8人（1人遅刻、5人欠席） <事務局> 子育てゆめるん課長、同副主幹、同課長補佐1名、同係長、同主査 <オブザーバー> 福祉課長、健康課長、教育総務課長、学校教育課長 アシスト株式会社
5	配付資料	・（案）南あわじ市調査票「就学前児童の保護者」 ・（案）南あわじ市調査票「小学生の保護者」 ・（アシスト提案）子ども・子育て ニーズ調査独自設問一覧 ・（研究部会提案）調査票原案及び独自設問案について
6	会議の概要	1. 開 会 子育てゆめるん課長が開会 2. 議 題 戸江会長が挨拶後議事進行 (1) 第二期南あわじ市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた保護者アンケート調査検討について (2) その他 3. 閉 会 宮野副会長が閉会 以下「2 議題」以降の要旨 <u>議題（1）</u> <u>第二期南あわじ市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた保護者アンケート調査検討について</u> (課長) 只今より第16回の南あわじ市の子ども・子育て会議を開催します。 委員の定数13名のうち7名が出席で定員の過半数に達しています。南あわじ市子ども・子育て会議条例第5条の規定に基づき、会議が成立したことを報告します。 では、会の次第に従い進めます。戸江会長お願いします。 (会長) こんにちは。第16回の、今年度は2回目の南あわじ市子ども・子育て会議を始めます。 今日は、アンケート調査が一つの大きな議題、課題になるが、次の第二期の子ども・子育て支援事業計画策定のための非常に重要なアンケートです。より今まで以上に一人ひとりの子どもの最善の利益にかなう事業計画ができていくよう、そのためのアンケート調査についての吟味、検討ということなので、皆さん方のご意見を頂戴してこのアンケート調査をまとめていきたい。

(課長)

今年度、年度途中で人事異動があり事務局に交代がありました。また、第2期子ども子育て事業計画の策定業者としてアシスト株式会社に決定しています。本日は担当者の方にオブザーバーとして出席していただいているので自己紹介を。

(事務局)

10月1日付で移動になりました西村。

(アシスト株式会社、以下アシスト)

アシスト株式会社の西村。

(課長)

では、ここから戸江会長へ。

(会長)

既に委員の方々には送付されていたと思います、前回の25年度の最初のアンケート調査の項目と今回の案が就学前児童と就学児童の2種類、全部で4種類。調査票原案及び独自設問案ということで少し変更のあったところや付け加えあるいは説明を十分にするためにいくらか補足的なものもいただいている。より、答えやすくなったように見えるが、項目が非常に詳細にわたっているので、アンケートを答える人は大変かと感じながら。どこをどう答えればよいか、よく読むとわかるようになっているかと思うが、今日は答えにくい点や、内容、疑問点などを一緒に見ていきたい。就学前から。

(委員)

アンケートの概要を説明いただければ。

(会長)

付け加えたものも含めて、事務局から。

(アシスト)

私から説明します。

まず、就学前児童の保護者の方へ、という調査票。

前回からの変更箇所については赤字にて表示している。

例えば問3は補足説明の追記、選択回答式か数字で回答するのかを記載し、回答者にミスリードを起こさないよう配慮した。

問1、2などの黄色いマーカーが付いた国からの量の見込みを算出するために必要な設問となっているので、こちらは加除修正すると推計の処理時に問題が発生しうる問題となるため印をつけている。

赤字は申し上げた通り修正している箇所。たとえば3ページ。青字のところ問10選択肢3と4、こち

らは弊社から修正した方がいいのではということで直した箇所。他の自治体からも混乱があるということで週 40 時間以上働いているのかどうかで分けをし、修正をさせてもらっている。

あとは 3 ページの※は注意書きを追加。

4 ページは問 10-1、前回の調査票には無かったが国の必須の設問となっているので追加した。

問 12 についてはより答えやすいと思い「程度」という言葉をそれぞれ追加。

問 13、国から示されている選択肢の内容をすべて記載した。選択肢の 1 番下、紫色の字。南あわじ市の該当する施設について、あった方がわかりやすいということで記載している。

6 ページ、問 13-3、前回は無かったが利用していない理由についても把握した方が良いでしょうと追記している。

7 ページ利用したい事業について聞く設問。無償化についてかかわるので、利用意向について把握するための設問。

問 14 は新たに国から示された、追加を求められた設問となる。

8 ページも「程度」を追加。

問 20-1 についてもファミサポの選択肢を新たに加えた。

問 21 や 23 もトワイライトステイやショートステイなどを追記。

問 27、住まいの子育て環境や満足度の設問、こちらは前回なかったが、南あわじ市様の子育て環境を検討するための資料となると思い追加している。就学前については以上である。

続いて小学生の保護者向け。こちら基本的には就学前児童と同様で、新たな修正は赤字としている。

問 7-1、就学前と同様、家族を選択する場合困ることが無いよう追記した。

問 14、選択肢で図書館を追記。※にある放課後子ども教室と放課後児童クラブについての説明を修正した。放課後児童クラブについては低学年が優先されていたのが小学生など。

また子育て支援に関する満足度も就学前同様に追記。

(会長)

ありがとうございます。

小学生の方はあまり大きな変更は無かったですね。

ではまず就学前児童のアンケートの方から。

追加された項目やこれも必要だなど、自由にご意見を。

(委員)

全体としてタフな質問が、ボリュームが多い。これだけ聞かないと計画が立たないため致し方ないかと感じた。具体的ところで修正を、2 ページの一番下の「教育」の項目内で「幼児期の学校」ということだが、これは「学校、幼稚園、保育所、認定こども園等」では。

(会長)

幼稚園と幼保連携型認定こども園は、国の考え方として学校教育法で幼児期の学校と位置付けられている。保育所は児童福祉法。

(委員)

幼稚園、保育所、認定こども園の保護者が勘違いするのでは、と。

(会長)

幼稚園や認定こども園が学校だと再認識してくれる方もおられれば、学校というと小学校というイメージが強いので、確かにおっしゃる部分もあるが、一応法制度の上では幼稚園や認定こども園は学校である。

(事務局)

括弧書きしては。「幼児期の学校（幼稚園、認定こども園）」という風に。

(会長)

幼稚園及び幼保連携認定こども園。

(委員)

問 13 以降にも保育所が含まれているが。

(会長)

幼稚園は教育といい、保育所は保育と言い、認定こども園は教育・保育という言い方をする。国の制度の言い方でどうしようもない。学校の後に補いを入れるということで。

他に。

(委員)

前回もボリュームが多く、全員答えてくれるかという心配もあったが、ある程度回答があったので今回も期待したい。

問 13 その他認可外の保育施設で翠鳳第一病院だけを書いているが他に 3 か所ほどあった。その扱いはどうするか。平成、中林、南淡路病院も翠鳳と同等では。確認をしておいてほしい。

あと小さいことだが選択肢 6.小規模な保育施設は括弧内、「認可を受けた」は「認定を受けた」では。9.が「認定保育施設」という表現なので。

それと 13-2 は実際には時間が決まっているが、関係なく利用を希望する時間を自由に書いていただくということでよいか。

(アシスト)

5 年前の調査票と同様の形としている。前回と比較しやすいと思いこのような書き方をした。時間も細かく聞かなくていいよう「程度」を付けた。

(会長)

今の 5 ページの問 13-1 の 10、枠外、その他認可外の保育施設に「翠鳳第一病院」だけが出ているが、今ご意見いただいたように他にもあるということで、どうするか。

(事務局)

翠鳳は一般にも受け入れができる認可外保育所ということ。平成と中林は完全に事業所内保育で地域枠を持っていない。翠鳳は地域枠もある。ガイドブックには翠鳳のみの記載である。

(委員)

実際認可外施設で受け入れの自由枠を持っていますよ、ということで記載している。制度上では認可外。また確認しておいていただければ。

(事務局)

設問の意図が、今どのような事業を利用しているかを確認する内容である。

(委員)

1～3号認定の子どもがどこを利用しているかを聞こうとしているのなら認可外も、認定は受けていないものの、3号認定または2号認定になりうるようなことで対象としてもいいのでは。

(会長)

「定期的な教育・保育事業」の「定期的」について、定義があったか。月単位か。

(委員)

「※年間を通じて」と書いている。

(事務局)

一時保育の一般型がこれに入るかどうかという事で。

(会長)

ファミサポも定期的に入ってくるのか。

(事務局)

ここでは入れているつもりはないが。

(会長)

国の指針、方針にこういう問い方をしようというモデルはあるのか。

(アシスト)

こちらは国から示されている調査票案の通りとしている。

不定期的については問の21のところを示している。

(会長)

不定期にもファミサポが入っている。二重に入っている。契約したら1年、定期的になるのか。それ

で定期的にも入ってるのか。

(委員)

ファミサポは登録制で、いつでも利用できるということだ。

(会長)

だから定期的というのにはなじみにくいかな。

(委員)

ちなみに問 21 のファミリーサポートくらぶも 11 月末で解散しているので消していただいて。

(会長)

ファミサポ、どちらかと言うと一時預りの方かと思うが。

不定期の方の問いにするとしましょう。

他の問、どうするか。「翠鳳『など』」にするか。

(事務局)

翠鳳第一病院、平成病院、中林病院保育室とするのはどうか。広域利用の方で島外、市外の場合もあるので、そのあとに「等」を入れるのが。

(会長)

「等」を入れておこう。

その他、国が示している正式用語だと思うが、選択肢 6 は「小規模な保育施設」ではなく「小規模保育所」では。正式名称の方がいいと思う。

また、「認可」か「認定」か。一般的に「認可」は国が、「認定」は県が認めたもの。これは市町村が認めたものなのでどう表記するのか。

(委員)

認定では。

(会長)

では「認定」に変えます。

選択肢 9 がそうだ。「自治体が認定した」となっている。9 番は今南あわじ市では事業実施していませんね。11 も。4 もなくなった。認定こども園か、公立の保育所。幼稚園は公私でこのままで。3。「都道府県等の認可」となっているが。

(委員)

「知事認可」である、私立も。

(会長)

じゃあこれで行こう。

5番の認定こども園は今度できるのは公立か。私立はもうありますね。全部幼保連携型？

(事務局)

そうです。

(会長)

ということで微細な表現の違いですがこのように修正を。

欄外の6.「小規模な保育施設」も「小規模保育所」に。ぬしまだけか。

(委員)

淡路医療センターの看護師さんはどこになるか。子どもを連れて働く方は何番になるか。

例にも入れることになるのでは。

(委員)

広域入所の関係になるので直接契約だが、小規模保育や事業所内保育については2号3号認定というのをしてもらおう。認可外施設は直接申請してもらおうので、南あわじ市在住の子どもは医療センターと直接申請してもらいます。

(委員)

「等」で済ませますか？一番多いが。

(会長)

所在は洲本市か。

(委員)

そうだが実質的には一番多いので。

(会長)

洲本の人が広田に預ける場合は広域入所か。その逆もあるのか、洲本市へ預ける場合。

(委員)

20人までの方が広域を使っている。

(会長)

南あわじ市でなくても洲本市や淡路市の保育所や幼稚園に預ける場合もここに○を付けるだろう。だから今の理屈で言うと、人数は多いけど10の仲間ということで、個々に書くともっと増えてしまうから、ここの例は南あわじ市だけということで。

(委員)

計画の中では今回は全てに問い合わせをして調査をした。

(委員)

紹介したほうが答えやすい。

(委員)

8.と 10 が一般の人にはわかりにくい。わからないと思う。説明書きがあれば良いが。

(会長)

認可外ということで 8.と 10.を一緒にすることはできるが。

定期的な利用状況を答えるという趣旨で、認可外にどの程度行っているかを把握するための設問であるがこの認可外というのがとにかくわかりにくい。保育所にしても淡路島内にはそんなになんもないと思うが大きな都市になるといくらでもある。すべてに「認可外〇〇保育所」とは書いて名乗ってないため、わかりません。9.は南あわじには無いということですが、確かに 8.9.は分かりにくいですね。一般の子どもも受け入れているので。

事業所内にどれくらいの子どもが行っているのかというのは確認したい内容なのか。

(委員)

3 号の確認になる。

(会長)

そうですね。

わかりにくいがこのままにしておこうか。

(事務局)

9.の自治体の認定保育所は関東にはあるが、南あわじ市には無いので削除するという手も。

ファミサポも同じで、都会では送迎を定期的にご利用することがあるので、全国的に言えばここを選ぶ可能性があるが、南あわじ市では定期での利用は無いため外しても。

また、欄外の青字については、※を順に目で追って最後の一番下に出てくるのではなく、最初へ持っていても、少しでもわかりやすく。

(会長)

11 も無いですね。

(事務局)

アンケートを受ける人が島外などで利用している場合はある。

(委員)

区分がわからない時は 13.その他で具体的な名称を記入してもらい事務局で分類すればよいのでは。

(委員)

施設名を書いてもらえば区分はわかる。

(会長)

いずれにしても混乱を招くので 9.は取りましようか。8.と 10.はそのままで。

(委員)

企業主導型、淡路島内洲本市に 1 か所ある。従業員が利用している。市内の方が利用しているか調べたことが無いのでわからないが。

(会長)

企業主導型は国が認めたと考えてよいのか。

(委員)

事業計画の中の給付費対応なので。

(委員)

さっき出たように、自分がどの項目に当てはまるかわからない場合は 13.にお書きくださいということでしょうか。

(会長)

ほとんどの方がいずれかに○を付けることができるけど、「どの区分に該当するか不明な場合は、具体的な利用施設の名称をお書きください」にしては。だから、「その他」ではなくて、文章を添えては。それで、8.と 10.も、名称を書いてもらえれば分類できる。12.も後ろに回して。多様な施設があるので。他にいかがでしょうか。

(委員)

4 ページ問 11 です、問 10 で「2.」「4.」に○を…となっているのは「3.」「4.」では。フルタイム以外の人に質問しているから。

(会長)

「フルタイムへの転換希望はありますか」は、フルタイム以外の人に聞かないといけないので、選択肢で言うと 3.と 4.である。

(事務局)

記載誤りです。

(会長)

はじめにアシスト様から説明があったが、3 ページの 1 番下、基本的にこの理解は正しいのか。フルタイムであるか否かは 40 時間を基本にしてよいのか。

(アシスト)

1 週当たり問 10-1 で時間の算出はする。

(会長)

$5 \times 8 = 40$ で 40 時間ですね。

(委員)

13-1 の内容が変わってきたので、問 14 の利用したいというところも併せて変更が必要では。

(会長)

そうですね。⑥⑨⑩…。⑩に託児所とあるがさっきは書いていなかった。最近「託児所」という言葉は使うのか。さっきと同じようにするなら省かねば。さっきと全く同じにしてもらったらいい。

今ではほとんど「託児」という表現は見かけない。とても責任の重い重大な仕事である。命を預かるという。

他に。

こういう形で配布されるが、14 ページの下、問 27「お住まいの地域における子育て…お答えください」で終わりだと思う人いないだろうか。裏にもあるので、見てくれるのだろうか。小学校の方は同じページになるが、就学前は次のページになるので。

例の無償について入れてくれているので、これで見えてくるのでは。

7 ページの問 10-1、訪ね方がわかりにくいように思うが。

「1.」「2.」は「1.」または「2.」ということ。③～⑫もすべてではない、いずれかに、という意味ですね。③～⑫の全部に○つけた人、という意味か、それともどれか、という意味か。

(アシスト)

①～⑬についてそれぞれ「1」～「3」まで回答いただくことを想定している。

そのうち、14-1 では①もしくは②に「1.」または「2.」と回答いただいた方のうち、さらに③～⑫のどれかの事業について「1.」または「2.」を回答した方について何うという内容になっている。

(会長)

③～⑫についてはいずれか、ですね。それが回答者、わかるだろうか。はっきり書いておきましょうか。③～⑫のいずれかの事業、「1.」「2.」も「1.」または「2.」の方がいいですね。言葉が長くなるが、その方が○を付けやすい。

幼稚園の利用を強く希望をしますか、の「強く」ってどの程度なのか。質問の意図は。

(アシスト)

こちらは幼稚園の利用意向に関する質問である。
認可保育所に該当する方について幼稚園を希望する方の把握になる。

(会長)

幼稚園にシフトしたい人を聞こうというわけですね。預かりも含めて幼稚園で過ごすことを希望するか、ということですね。わかりました。
希望しているが、強くない、という人は…。いいえにしますかね。
細かいところまでだいぶ吟味いただきまして。
就学前の方はこれでよいか。より記入しやすくなったと思う。
では、小学校の方に。

(委員)

学童保育。問 7-1。南あわじ市では学童のニーズも高まっているが、学童に通っている保護者が学童保育支援員に相談してくることもあるが、この場合回答は 4.か。

(委員)

子育て支援センターが小学校に入っていること自体がおかしい。

(委員)

学童保育、児童館等、にするか。

(会長)

4.の項目の示し方が不十分ということですね。

(事務局)

4.の子育て学習・支援センターが小学生のアンケートに入るのは間違い。いっそ学童保育、児童館等としても。

(会長)

人だから学童保育支援員ですね。児童館はどうするか。学童保育支援員「等」。児童館は別にした方がいいのか。もう一つ番号を増やすか。指導員か。

(委員)

指導員の設置はしていない。

(委員)

他に社会体育の指導員も。野球やサッカー。学習塾の先生というのはどうだろうか。社会体育は結構あるだろう。

(会長)

社会体育の指導員か。

(委員)

社会体育の指導者。

(会長)

社会体育指導者として入れますか。

(事務局)

例の「ベビーシッター」というのは実態としては無いので、そこを社会体育指導者としても。

(会長)

例の「ベビーシッター」をやめて、「社会体育指導者」としますか。

(委員)

社会体育の指導者に相談する人の数を単独で調べたい。

(会長)

つまり、結構多いという見込みをお持ちなわけですね。

小学校教諭、民生委員、児童委員も入っているので、そこへ入れますか。

その次くらいに8番として入れるといいのでは。

かかりつけ医、市役所の窓口。4番は結局学童保育支援員として、児童館をどうするか、ですね。例のところに児童館とするか。児童館「〇〇」、また調べておいてほしい。

(事務局)

問14で「放課後子ども教室」が出てくるので、これも入れては。

(会長)

これも指導員かな。問12、13、14全部「放課後児童クラブ(学童保育)」となっている。同じ「放課後児童クラブ(学童保育)支援員」に統一しては。

それと「放課後子ども教室指導員」は問7-1のどこに入れるか。5か。

これは教育委員会ですね。一応「指導員」にしておき、この〇〇員は調べて、確かなものを入れておいてください。

(事務局)

問14との整合性を見ると「塾や習い事の先生」を「小学校教諭」の後に入れてみては。いっぱいになります。

(会長)

ありうるだろう。何番にするか。社会体育の後に。「塾や習い事の先生」。確かにあり得る。

(事務局)

こちらが提出しておき誤りが多くて申し訳ないが 5.の「保健センター」も「保健師」に変えてもらう方が。

(アシスト)

私の意見ということでとどめていただければと思うのだが、問 7-1 で「気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか」なので「どこ」ということで施設名も記している。選択肢については 5 年前の調査もそうだが、回答として 1 番多かったのが祖父母等の親族やご家族、続いて友人知人、職場の人となっている。あとは近所の人であったり子育て支援施設と続く。程度の差はあれ、どちらの自治体も順位についてはそのような傾向が見受けられる内容になっている。細かく記載するという事でしたらそのようにさせていただくが、細かくするとどれだけの割合で出てくるのかなど。細かすぎるとそこまで割合として出てこないのかなという考えがある。「先生」という形で基本的にはどのような状況なのかという把握になるので、前回とどういいう変化があるのかというのも併せて見ることができるといいう思いもある。

(会長)

あまり細かくしない方が良く、というか前回とは。

(アシスト)

前回とはほぼ変えておらず、変えたのは赤字の箇所のみとなっている。

(会長)

前回との比較をするならあまり変えない方がいいということだが。

(事務局)

二つほど追加になったと思うが、「保健師」も削除して、「市役所窓口」と同じにしても。以前は旧町単位で保健センターがあったが、今は市役所の窓口保健師がいるので。

(会長)

やはり前回からの 5 年間で少し変化もあり、調査という意味では前回と同じ項目の方が良いことは良いが、今の議論を生かして調査をすることにしましょう。

今お話しあったように、社会体育指導者も多いかもしれないし、学童保育支援員も活躍しているかもしれないので、このあたりを見たいというのものもある。

問 7-1 はこのように項目が増えました。

他は 3 ページ、問 10、フルタイムのところ、やっぱり「3.」「4.」では。就学前と同じで。

(委員)

問 13 の選択肢「2」。これはこの理由なら学童に預けられないので不要かなと。

(委員)

保護者が働く予定であるということで「就労予定証」を提出して一定期間預けることはできる。

(会長)

保育所も同じです、これは置いておこう。

(委員)

問 14 は 1～3 年生、4～6 年は問 15 に答える。問 15 は 1～6 年まで全員が回答するのか。

(会長)

問 14 は 1～3 年の親、問 15 は全員。

(アシスト)

この問いの違いは、回答自体は同じだが、問 14 については 1～3 年生の間はどのような場所で過ごさせたいか、問 15 については 4～6 年はどうかという内容。4～6 年年生については、もう過ぎてしまっている 1～3 年生の事を聞いてもと思い、問 14 については入れていない。

(会長)

理解しやすくもう少し訪ね方を工夫した方がいいかもしれない。

(委員)

5、6 ページのファミリー・サポート・センターは、南あわじ市では小学生を対象にしてないと思うが。

(委員)

変に希望があってもね。

(会長)

今は幼児だけなのですね。

(事務局)

ニーズ調査として希望を聞くことができれば。意見があっても対応できるかわからないが。

(会長)

ニーズ調査として把握してもいいかもしれないね。都市部では塾の送迎の利用者がものすごい多い。その他いかがか。

(事務局)

事務局から申し訳ないですが、問 12 だと学童を利用していない世帯にもアンケートが行くので、利用していない人も「ゼロ」と回答する必要があるのか、その前に利用しているかしていないかを問い、利用している人は以下の質問に、との方が良いのでは。

(事務局)

この小学校用の調査票は学童保育利用者の保護者に配布するという事になっている。

(会長)

学童保育利用者を選択して調査するんですね。全体ではなかったんですね。

(事務局)

小学校の対象が 200、前回は学童保育利用者 200 名としている。そうなるとおかしい設問もあるが。

(会長)

ということはオープンなアンケートではないので、これから学童保育を利用したいという数字はつかめないということ。

(委員)

問 7 で聞いたことが、例えば社会体育は学童の子は行っていないから矛盾してくる。

(会長)

オープンな調査にするとだいぶ変わってくる。学童の子の親なら問 9 要らない、働いてるから。学童の子どもだけでいいのか、オープンで 200 とするのか。オープンに 200 とすると、さきの問 12 は問い方を変えればいいわけで。どうしましょう。オープンにするか。その方が状況は見えやすいかと思うが。前の時、5 年前はどうか。

(委員)

学童保育利用者となっている。

(事務局)

学童保育利用者 200 名に対して行っている。

(会長)

本当だ、就学児童 200 人（学童保育利用者）と明記している。今回もそうするなら明記しておかないといけない。今の表現なら一般的にオープンな調査のように見える。今回の調査はどちらに焦点を合わせるか。オープンか、学童保育利用者か。

就学前はオープンか。

(事務局)

比べやすいようにできるだけ前回と同じにしたいが。時間も経って変わったところも、よく見るとおかしなところもあるが。

(会長)

学童保育利用者の比較は別にして、アンケートの趣旨からして学童保育を利用している子どもたちのアンケートで意味があるのか、オープンでこそ意味があるのかと。計画策定のためのアンケートであるから。

(事務局)

今回はオープンにして、問 12 の質問の仕方を工夫すれば解決できるのかなと。

(会長)

学童保育を利用しているかどうかを聞く項目はあったか。

問 12、13 で利用しているかを聞かなければいけない。利用している人と利用していない人とに分けて設問しましょうか。今、あちこちの学童で待機が出ている状況なので、オープンにして学童を利用している、近所の祖父母に面倒見てもらっているなどがあると思うので、放課後の過ごし方の状況を、これからではなく、今を訪ねる項目が必要。

前の時は学童保育利用者だけを対象にしていたんですね、自分で気が付いていなかった。

今、学童保育利用者はやっぱり増えているのか。

(委員)

ますますニーズは高まっている。

(委員)

オープンにする場合、質問者の宛名はどのようにするか。全児童は 2,300 人ほど。地域によって違うので、抽出の場合しっかりした結果が出てこない。

(会長)

就学前は抽出ですか、年齢別も考えてか。

(事務局)

1,000 で、年齢と保育所の所属をある程度事務局で考えて。

(会長)

就学前が 1,000 人、小学生が 200。大体人数一緒だろうか、小学生 6 年間の方が多いか、少子化で減ってきているだろうか。就学前は 1,000 ということは 2 人に 1 人は調査をすることになる。小学生は、

どれくらいすれば。基本、これは就学前が中心の調査だろうが、500 ほどか。学童保育利用だから 200 だったのか。

(事務局)

そこは前回と同じ 200 にさせてもらった方がいい。

(会長)

200。12～13 分の 1 くらいでいいのかどうか。難しいところ。

(委員)

学童利用者が 10 月 1 日で 275 人。

(会長)

データを取ったということは 5 年前も 200 は利用者がいたということか。

これからも利用者が増えることは間違いない。

(事務局)

先生がおっしゃるように、あくまで就学前の調査がメインなので、前回の調査に概ね合わせた形に調査をしたい。設問内容はフリーだが、主には学童保育に通っている方にし、200 名とする方が前回との整合性がとれる。

(会長)

いかがか。それでいくか、今回。

(委員)

32 年度から計画を上げるとなると、その時に 1、2 年生の情報がほしければ現在 4、5 歳児の保護者の意見を聞きたい。

(会長)

就学前アンケートで就学後の事を訪ねていたか。問 24 にあるね。これを 5 歳以上としているのを 4 歳も入れては。就学前 2 年前にすることが問題なければ 4 歳以上に。

(アシスト)

国が 5 歳以上で求めていたのでそのように設問を設定した。

(会長)

具体的に「〇年〇月生まれ以降」と示すことも。4 歳児クラスの早生まれで調査に入る児童と入らない児童が出るが、ざっくり把握するだけならそれでもいいが。

(事務局)

国の調査の仕方が 5 歳以上となっているが、南あわじ市独自として小学校以降の先の学童保育利用について調査範囲を広げるために 4 歳児とすることは可能。

(アシスト)

問 2 で年齢がわかるので、別途報告用として抽出することも可能。

(事務局)

では、問 24 は 4 歳児として〇年〇月〇日生まれ以降の方とさせてもらう。

(会長)

2 年後に小学生になる子どもが照準なので、4 歳児以上。

(事務局)

平成何年かの 4 月 2 日以降。

(会長)

来年再来年を想定して、それでいこう。国への報告は、最初に年齢を聞いていて 5 歳以上を割り出せるので、報告はできるということで。南あわじ市は独自にいこう。

小学校のアンケートから逆に就学前へも修正点ができたが、その他検討が必要な点はどうか。

小学生は 5、6 ページは「週何日くらい」となっているが就学前は「程度」を使っていたように思う。

これはこのままでよいか。意味がわかればどちらでもいいが国の方はどうなっていますか。

(アシスト)

国には無く、単に「〇日」となっている。

(会長)

はっきり定まらない場合があるからその方がよいだろう。

小学生も問 9 「程度」となっている。意味がわかればいいでしょう。

就学児童は前回と同じように学童保育利用者ということを 1 枚目に入れておく方がよいだろう。前回は「就学児童 200 人（学童保育利用者を対象に）」となっている。

(委員)

200 より多くでは。

(会長)

学童利用者ですね。

(事務局)

オープンにするのだが、できるだけ学童保育を利用した人を意図的に選ぶ方が、前回と整合性はとれるだろうと。

(会長)

一般にはするということ？

(事務局)

はい。

(会長)

学童利用者を多めに？

(事務局)

はい。

(会長)

無作為ではないということですね。

(事務局)

なしの方がしやすいかと。

(会長)

それでよろしいか。

(委員)

オープンにする場合、抽出数が少なくあまり質問の目的に合致しているのか不安。

(会長)

僕も感じる。前は学童保育の 200 名はほとんどだったのでは？だから 200 名で良かったと思う。

(委員)

それだったら学童保育を利用している人だけでいいのかなと。

(会長)

するなら集約してその方がいいような。

(事務局)

そうですか。はい。

(会長)

そうすれば前と全く一緒だから。

(委員)

オープンにするとまどがしぼりにくいから。

(会長)

2,000 いくらの 12 分の 1 くらいでは抽出数としてはあまりよくない。

(事務局)

ちなみに学童の利用者が前は 1~3 年だが今は 6 年までで人数が違ってくる。

(会長)

今が 275、これは 1~6 年まで。

(委員)

ほとんど 3 年生までが多いが。

(会長)

それか利用者 275 人全員アンケートするか。

(委員)

数はあまり変わらないですね。

(会長)

どうでしょう。

前と数字合わせた方が良いか。

(事務局)

事務局としてはそうしてもらう方がいいが、どうしてもであれば。

(会長)

前、5 年前、学童利用者は 200 人いたのか。

(事務局)

小学生調査配布 200、回収 194、回収率 97%。配布数は 200 となっているので、利用者数は不明だが、現在 6 年生まで増やして 275 なので、ほぼ全数に近いのかと。キリのいいところで 200 にしたのかと。

(会長)

200 の抽出の仕方が無作為でなくなったら具合が悪いかと。アンケートは無作為が望ましいから。学童保育利用者を中心にするなら全員にしてもいいような気がする。

(委員)

兄弟姉妹で入っている子も。

(会長)

家族にアンケートするから世帯にしたら 200 くらいか。

実質 200 くらいでいきましょうか。

(事務局)

100 単位の方が割合を出すのに集計しやすいと思う。200 か 300 か。

(会長)

200 でほとんど入るということで。では、200 で。

いろんな角度から検討をいただいて両方のアンケートの整合性も細かいところまで詰めていただいた。

これで今日ご意見いただいたところをもう一度修正後に送っていただいてみんなで確認するという順序を経ましょう。

(事務局)

もう一つ。独自設問について検討いただきたい。

補足資料の中で縦の資料がアシストさん、横の資料が南あわじ市政策検討委員会の子育て教育事業研究部会で提案のあったもの。全部入れるとかなりの量。この中から南あわじ市の独自の調査をつくるということ。

(会長)

いかがか。それぞれ設問の意図も書かれているが、独自設問として設定するかどうか。

(事務局)

政策検討委員からの提案については、南あわじ市でもどういった動向かを知りたい、それを南あわじ市の新たな子育て、教育政策の参考としたいため、今回事業計画のアンケートがよい機会なのでここに入れていただけたらと。子育ての事業計画の基本方針や子どもをとりまく現状を前回分析しているので、現状の把握や第 2 期の基本方針を立てる上でもこれらの質問が役に立つと思えばさせてもらった。

併せて計画策定業者が提案してくれた独自設問もあるので、それとかぶらないようにしたい。多いのですべては難しいが、いくつか設問案として追加してはどうかと事務局から提案する。

(会長)

政策検討委員会の設問は独自設問としてあってもいいかと思うが。夫の休日の家事育児時間に少し違和感が。

(事務局)

第2子以降の子どもを産む家庭では夫の家事への参加時間が多ければ多いほど出生の数も多いという結果が国の調査でも出ている。南あわじ市では出生率が下がっているのに、多子世帯、第2子以降の出生の数を増やすことで出生数を上げていくために、もしその時間数が影響するのなら、その施策を考える必要があり、その資料になればと思います。

(会長)

日本人の男性は本当に少ない。

政策検討委員会の設問は全部入れますか。入れて何か問題は。

未就学、就学両方か。未就学だけか。

(事務局)

どちらも当てはまると思うが、必要な方だけでも。

(会長)

就学の方はどうか。

(事務局)

出生にかかわる設問なので、小学校に通われる世帯のお母さんの年代でもまだこれから出産される方もいらっしゃると思います、入れている。未就学だけでもよいが。

(会長)

小学校3年と6年に子どもがいるという人に「理想の子どもは何人ですか」と現実とのギャップを問う。他の統計資料でもギャップはずっとある。

入れるとしたらどの辺に。初婚年齢も大体女子29、男子30.5くらいだろうか。

もう少し検討するか、それともストレートに計画を立てるときのヒント、参考になるということで全部入れるか。別に問題はないと思われる。

(委員)

この中に更に入ってくるという事ですね。28問+5問で33問。3歳までの子どもを抱えて書くのは大変な労力になる。

(会長)

もう少し細かい方(アシスト提案分)は

(アシスト)

あくまで設問案として示しただけであり、回答者の負担感を勘案する必要があるのですべて追加するというわけではない。

(事務局)

アシストさんが作ってくれたもので追加した方がいいと思うものがあれば。

(委員)

「情報の入手先」について、子育て支援にかかわっている者としては知りたい。

(会長)

「子育てに関する情報」とはどこまでの範囲のものを指すのか。

こちらで調査している項目と同じものもあるが、先の「情報をどこから入手するか」については訪ねてもよいだろう。あまり項目数が増えると途中でアンケートに答えるのが嫌になる可能性が。

無償化は既に行っているし、子育て情報の他は。

同じページの下から4つ目、これはよく訪ねる。「子育てを楽しんでいることが多いですか、つらいと感じていることが多いですか」。ただ、事業計画策定のための状況を答えていただくような設問なので、そこにびたっとうまくはまるかという。子育ての負担感などはよく訪ねますが。

この辺を入れるとなると、また別の枠を設定しなければ。「子育ての状況についてお伺いします」というような。

せっかくアシストさんがせっかく入れてくれましたから。一つ目は私も気になる場所なので子育てに関する情報入手については入れてもよいかと。項目が増えることも配慮し、今回は政策検討委員会の質問と、アシストさんの1番上のものだけにしては。増えるのが心配なので。これをうまくどこかに入れていただいて。

これで更にまだ気になることがあれば、また事務局の方へご連絡を。今の増やした項目を含めてもう一度修正案を作ってください、委員へ送付いただければ最終チェックしたい。

そういう風に進めていくのでよろしいですか。アンケートはいつするのですか。

(事務局)

アンケートは12月中に作成し、発送は1月。1月末までには回収をし、集計をいただき結果が3月ぐらいになる予定。

(会長)

ではすぐにですね。ぜひよろしく。

議題(2)その他

他のことで特に議題として取り上げるものがありません。

よろしいか。

では今日は長時間に及んだが以上にします。主にアンケート調査項目の検討ということで、様々な視

点からのご意見をいただき、修正案を作成するという事になった。

それでは次回は。

(事務局)

3月ごろにはこの会議で提示できるものができる予定。

(会長)

では次回は結果が出てからということで、3月の半ばから後半ということでまたご提案を。

3時間を超えて熱心に議論いただき、良い修正案ができると思う。それでは閉会にあたり副会長より。

3 閉会

(副会長)

長時間にわたり、先生がおっしゃってくださった。

今後ともご協力を。ありがとうございました。